

入域観光客統計概況

- 平成 17 年 5 月分 -

平成 17 年 6 月 21 日
沖縄県観光商工部

5 月の入域観光客数は、414,400 人。前年同月比は、+4.9% (+19,400 人) で、5 月としては初めて 40 万人を突破し、同月の過去最高を記録した。

1 月～5 月までの入域観光客数は、2,181,400 人。前年同期比は +3.1% (+65,900 人) となり、過去最高を記録した。

1. 国内外別入域状況

国内：398,400 人 前年同月比 + 4.9% (+18,700 人)
海外：16,000 人 前年同月比 + 4.6% (+ 700 人)

2. 主要航路別入域状況

東京	164,600 人	前年同月比 + 5.9% (+ 9,200 人)	構成比 39.7%
阪神	93,000 人	前年同月比 + 6.4% (+ 5,600 人)	構成比 22.4%
福岡	48,300 人	前年同月比 5.7% (+ 2,900 人)	構成比 11.7%
名古屋	33,600 人	前年同月比 +17.1% (+ 4,900 人)	構成比 8.1%
札幌	5,800 人	前年同月比 + 3.6% (+ 200 人)	構成比 1.4%

3. 概況と見通し

5 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、ゴールデンウィークの日並びの良さや修学旅行生の増加、沖縄人気の継続などの要因により前年実績を上回った。

外国客については、定期クルーズ船の運航が好調に推移したことなどから前年実績を上回った。

以上のことから、国内客、外国客ともに前年実績を上回り、5 月としては初めて 40 万人を突破し、単月の過去最高を記録した。

今後の見通しとしては、国内客については、沖縄人気が続いていることや、夏場の旅行商品の予約状況が好調なことなどから増加することが予想される。

外国客については、6 月末から 7 月末まで高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便の運航が予定されていることなどから、好調に推移すると予想される。

以上のことから、入域観光客全体としては、当面、好調に推移すると思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098 - 866 - 2763
FAX 098 - 866 - 2767

(財)沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

ゴールデンウィークの日並びの良さや、沖縄人気が続いていることなどから個人型商品が好調に推移し、前年実績を上回った。

夏場に向けた沖縄キャンペーンを各旅行代理店が早目に立ち上げたため、夏休み商品の動きがよく、7月から8月は好調に推移するものと思われる。

大阪事務所(阪神地区)

沖縄音楽や食材、癒し等による沖縄人気が続いており、国内の旅行先としてメジャーとなったことや、大型連休の日並びの良さ、修学旅行生の増加などの要因により入域増となった。

夏の家族向け旅行商品の発売開始にあたり販促キャンペーンが展開されることや、夏の旅行商品の申込状況が各社5%~15%の伸びを示していることから今後も好調に推移するものと思われる。

福岡事務所(九州・山口地区)

5月は、個人旅行商品やパッケージ商品は好調に推移したが、一般団体客が落ち込んだため、前年実績を下回ることとなった。旅行代理店へヒアリングした結果、福岡西方沖地震が消費者の旅行マインドに少なからず影響を与えていると指摘する意見が多い。

7月から8月の期間中は、愛知万博への送客が本格化し、家族旅行層や団体客が一時的に名古屋へシフトする可能性があることが予想されるが、7月、9月は前年実績を上回る見込みである。

名古屋事務所(名古屋地区)

ゴールデンウィーク明けは梅雨のため例年旅行者は落ち込むが、梅雨でも沖縄を楽しむことのできるリピーター客が、安い旅行商品を中心に増加しているため好調に推移した。

8月に名古屋-那覇路線が2便増便されることや、旅行需要が高まっていることなどから、今後も順調に推移すると思われる。

北海道観光・物産情報センター(北海道地区)

5月の国内旅行の傾向として、全体的に前年並みで推移しているなか、沖縄は微増であった。

6月は、各航空会社の団体予約状況からすると、集客は伸び悩んでいる。

2. 海外

台北事務所(台湾地区)

定期クルーズ船寄港地についてのマスコミ招聘記事が入域者増につながった。しかし、空路による来沖者数は、愛知万博ツアーへの送客が本格化していることや、団体ツアーチケット価格が他地域と比較して高いことなどにより2割近く減少している。

台北市内の旅行社によると、6月は小規模のインセンティブツアーが好調とのことである。

韓国事務所(韓国地区)

定期便を利用した沖縄への旅行商品については、他府県と比べて価格面で競争力が弱いため苦戦したが、フェリーフライトを利用した格安商品や、クラブメッド石垣国際チャーター便により350名余りを送客した。

夏場の集客競争が始まり、日本国内外の他地域との競合が予想されるが、沖縄への送客については、中小規模のインセンティブツアーが予定されているため、昨年並みの実績を維持する見込みである。